

令和4年度ホタテガイ採苗情報（臨時号②）

令和5年2月28日



発行：岩手県水産技術センター

協力機関：沿海振興局水産部・水産振興センター
関係漁業協同組合

R5年の天然採苗について

<近年の天然採苗の状況>

岩手県沿岸に来遊するホタテガイラーバは、前浜以北、遠い所では陸奥湾や噴火湾から来遊しています。このため、その年の海況によってラーバの来遊量や来遊時期は異なります。

特に近年は付着盛期が年により大きく異なり、採苗適期の判断が難しくなっています（図1）。さらに、以前にくらべ、付着稚貝数も少なくなっています（図2）。

また、その年の海況に加え、親貝の量も採苗数に関係しています。採苗の安定化に当たっては、十分な親貝の確保が必要になります。一方で、当県では、ホタテガイの生産量は減少傾向となっており、これに伴う親貝の減少、ひいては、付着稚貝数の減少が懸念されます。

加えて今年は、陸奥湾においても、親貝の不足と親貝の生殖巣が小さいため、ホタテガイ産卵数やラーバ数の減少が懸念されています（青森県産業技術センター水産総合研究所等発行【ホタテガイ採苗速報 第16号（R5.2.24）】）。

これらにより、今年はホタテガイラーバの量、付着数量が減少することが危惧されます。

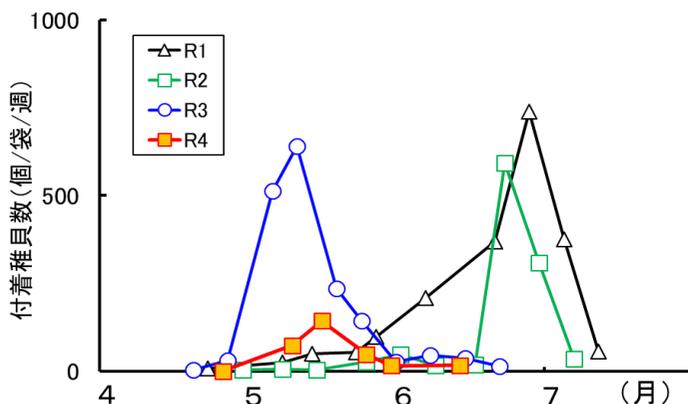


図1 唐丹湾における1週間当たりの付着稚貝数の推移

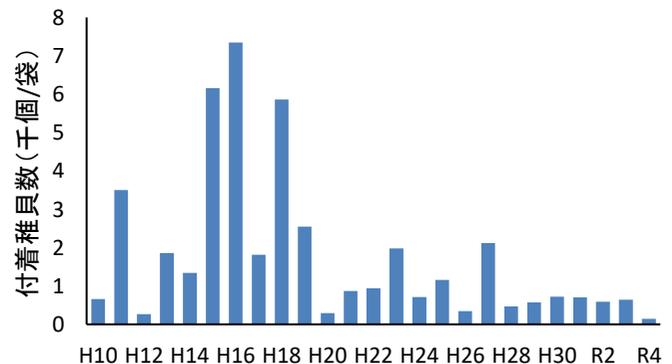


図2 唐丹湾における付着稚貝数（付着盛期を含む2か月間垂下）

【陸奥湾の状況（ホタテガイ採苗速報 第16号）】（令和5年2月24発行）

○全湾で親貝数が少なく、1枚当たりの生殖巣重量が軽い海域が多いことから、ラーバ数が少なくなる可能性がある。

このためR5年時の天然採苗では、特に次のことに注意しましょう。

- ・採苗器の数を増やすこと。
- ・ラーバ調査、付着稚貝調査を実施し、結果をもとに採苗器を適期に投入すること。